

# 近代ヨーロッパの色彩版画技法に関する研究 イギリスにおけるカラー木口木版の誕生とその展開

研究代表者 芸術学部 基礎教育 准教授 大森 弦史

ヴィクトリア朝前期のロンドンで活動した版画家・印刷業者であるジョージ・バクスター（George Baxter, 1804-1867）[図1]は、色彩版画、すなわちカラー印刷の商業化に初めて成功した人物として知られている。彼は1835年に取得した特許技法、通称「バクスター法」によって膨大な色彩版画を制作しただけでなく、同業者に特許ライセンスを供与し、実施権者の工房からもそれこそ天文学的な数の色彩豊かな版画を市井に供給させた。



図1 バクスターの肖像写真

またバクスター法は、彫版師エドモンド・エヴァンズ（Edmund Evans, 1826-1905）らが19世紀半ば～末に挿絵やトイ・ブック（安価な子供向け絵本）に用いたカラー木口木版の誕生にも大きな影響を及ぼしたといわれる。このように色彩に満ちた版画＝印刷文化の隆盛に果たしたバクスターの貢献は甚大なものであったが、彼とその版画に関して、美術史の見地に立った専門研究は未だ乏しいのが現状である。

そこで本研究は、ヴィクトリア朝イギリスにおける木口木版を用いた色彩版画、特にバクスター法からカラー木口木版への技法的・様式的展開に焦点を当てた。

そして詳細な文献調査とロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館（V&A 美術館）で実施した作品調査（2017年8月29日～9月5日）によって得られた知見をもとに、その成果を論文としてまとめた（「ジョージ・バクスターからエドモンド・エヴァンズへーヴィクトリア朝イギリスにおける木口木版を用いた色彩版画技法」、東京工芸大学芸術学部紀要『芸術世界』24号、2018年3月、掲載予定）。

\*\*\*

論文では、V&A 美術館での作品調査をベースに、バクスターの色彩版画について特に技法的・様式的側面から考察を加えた。その上でエヴァンズのカラー木口木版との比較を行い、その技法の相違が結果としての版画の表現様式にいかなる影響をもたらしているかを詳細に検討した。



図2 バクスター、《恋人たちのポスト》、1856年  
バクスター法、37.3 x 26.8 cm、V&A 美術館



図2 拡大図

バクスター法は、主に鉄版（凹版）を図柄の輪郭・明暗・階調を司る「主版」として用い、そこに木口木版（凸版）による「色版」を複数枚刷り重ねる混合的な技法である [図2]。そのメリットは、緻密な描写が可能だが手間のかかる凹版と、簡便だが精緻な表現が難しい凸版を併用することで、高品質な色彩版画を比較的安価に制作・供給することを可能にした点にあった。微細な主版の階調は色版と溶け合い、無段階のグラデーションとして現れる [図2 拡大図]。また金属プレスによって画面を平滑に均し、ワニス・グレースを塗布する仕上げ工程は、とても版画とは思われない濃密さ・重厚さを生み出す要因となっている。

一方、1850年代前半にエヴァンズらによって実用化されたカラー木口木版は、主版・色版とも木口木版で色彩印刷を実現したものである [図3]。従来、バクスター法の特許回避のために考案された省略的技法と見なされてきたが、その明るく軽やかな絵肌はバクスター法とは全く異なっており、それは両技法における主版の役割の相違、そして色版の彫版処理の相違に由来することがわかった。

「油彩版画 Oil Printing」と銘打ったように、バクスター法は油彩画を巧妙に偽装・模倣するための技法であり、挿絵・絵本を制作するカラー木口木版とは異なる

特異な用途に資するものであった。つまりバクスター法は、カラー木口木版の「父」というよりはむしろ、両技法に先行した版画家ウィリアム・サヴェージ (William Savage, 1770-1843) \*による多色刷り技法から分岐した風変わりな「兄弟」に相当する、というのが論文を通じて得られた結論であった。



図3 グリーナウェイ原画、エヴァンズ彫版、《しゃぼん玉》1887年、カラー木口木版、12.4 x 10.0 cm、V&A 美術館

現在、私たちが謳歌しているカラー印刷の文化は、19世紀前半のヨーロッパにおいて試みられた多種多様な色彩版画技法によってその産声を上げた。本研究によって、イギリスで発達した木口木版を用いた色彩版画技法については一定の青写真を描くことができたといえる。今後は、同時期に誕生し、やがて色彩版画＝印刷の支配的技法となるカラーリトグラフとの関係性について、同時期のフランス・ドイツの動向も踏まえながら、より多角的な考察を試みていく。

またわが国において、バクスター研究はもちろん、その系統だったコレクションも先例がない。本研究を契機に、バクスター版画のコレクションを小規模ながら形成できたことは誠に意義深いことである。将来的な展覧会開催を念頭に置き、収蔵作品の基礎調査およびデータベース化を進めていく予定である。

\* サヴェージはヨークシャー出身、木口木版を用いた色彩版画技法の先駆者。William Savage, *Practical hints on decorative printing: with illustrations engraved on wood, and printed in colours at the type press*, London, 1822.